

市民生活に身近な「市の仕事」。 ここにも予算が使われています。

日常的な光景でどのくらいの予算が使われているかはわかりにくいものです。
身近なものとして実感しやすい、いくつかの例をご紹介します。

ごみ、資源の収集処理に 要する経費

ごみ
処理

ごみの収集や焼却、資源物のリサイクルにかかる経費など

年間 **130** 億円

世帯数：717,241世帯（平成30年1月1日現在）

1世帯あたりの
負担額

年間
18,126 円



保育園の運営に 要する経費

子育て

公立保育園、民間保育園の運営費など

年間 **454** 億円

対象園児数：27,861人（月平均）

園児1人あたりに
必要な経費

年間
1,630,716 円

このうち保護者からの負担
年間 382,284円



公園の維持管理に 要する経費

環境

草刈や樹木の剪定にかかる経費など

年間 **37** 億円

公園管理面積：7,443,090㎡
（市民生活に身近な公園＝約2,500㎡の広さが目安）

2,500㎡あたりの
経費

年間
1,229,248 円



介護保険サービスに 要する経費

福祉

介護サービス・介護予防の実施等にかかる費用

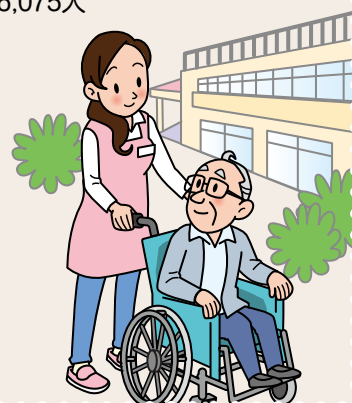
年間 **906** 億円

要介護・要支援認定者数：56,075人

対象者1人あたりに
必要な経費

年間
1,615,536 円

このうち65歳以上の保険料
からの負担 年間 380,513円



ことばの解説③

かわ さき し そう ごう けい かく
川崎市総合計画

川崎の良いところを活かしながら、もっと住みやすいまちをつかっていけるように、10年後、30年後を見据えて、まちづくりの道筋を示す計画です。市の予算も川崎市総合計画に掲げる施策を着実に推進できるように編成されています。

関連記事 ▶ P.9~12